



各 位

NPO 放送批評懇談会 (担当: 中島/齋藤)

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

ホームページ <https://www.houkon.jp/>

## 発表!! 第二弾 第 59 回ギャラクシー賞

**志賀信夫賞**

**フロンティア賞**

**マイベストTV賞グランプリ**

平素は放送批評懇談会にご理解とご支援をいただきありがとうございます。

テレビ、ラジオ、CMの作品、制作者、関係者に贈る賞として 59 年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」。

4 月 28 日のリリース第一弾に続き、第二弾として、志賀信夫賞、フロンティア賞 (テレビ部門)、マイベストTV賞グランプリを発表いたします。貴誌/紙、貴メディアでのお取り扱いをお願いいたします。

贈賞式は、6 月 1 日 (水) に開催予定です。

新型コロナウイルス感染症の影響により、無観客で執り行い、放送批評懇談会 YouTube 公式チャンネルでライブ配信を行います。

6 月 1 日の贈賞式ライブ配信も広くお知らせいただければ幸いです。

### 第 59 回ギャラクシー賞贈賞式 YouTube ライブ配信

日時: 6 月 1 日 (水) 午後 3 時~5 時 15 分 (15:00-17:15)

放送批評懇談会 YouTube 公式チャンネル  
<https://www.youtube.com/HOUKONchannel>



新型コロナウイルスの感染状況によっては、贈賞式を延期または中止する場合があります。ご了承ください。



# 放送批評懇談会 第 13 回志賀信夫賞

## 川平朝清 沖縄放送協会初代会長

志賀信夫賞選考委員会 [委員長] 音 好宏 [選考委員] 川喜田 尚 藤田真文 出田幸彦 丹羽美之

「志賀信夫賞」は、当会創設メンバーである志賀信夫の長年にわたる放送批評活動の功績を記念して創設されました。番組制作に留まらず、放送局やプロダクションの経営、業界の新たな仕組み作りなど幅広い業績を対象に、広く放送文化、放送事業の発展に顕著な貢献をした個人を顕彰することが目的です。慎重かつ多角的な討議を重ねた結果、第 13 回志賀信夫賞に川平朝清氏を選出しました。

### <選評>

川平朝清さんは、米軍統治下に置かれた戦後の沖縄の放送の礎を築くとともに、沖縄の日本復帰にあたって本土と沖縄の放送を結びつけていった沖縄放送史のキーパーソンです。川平朝清さんは、1950 年に戦後沖縄初の放送局「琉球の声」を設立した兄の朝申さんを支えるとともに、初代アナウンサーとして活躍。沖縄の復帰準備が進む 1967 年に、先島を含む沖縄の放送普及を担った沖縄放送協会の初代会長に就任。同協会は、1972 年の沖縄の日本復帰とともに NHK に統合されますが、そのスムーズな移行に汗を流されました。復帰後、川平さんは、NHK でその国際展開に腕を振るわれるとともに、放送文化基金の事務局長として、放送文化にかかる活動、放送研究の支援に尽力されました。川平朝清さんは、沖縄の日本復帰後も、沖縄と沖縄の放送に対する熱い思いを持ち続け、今日まで積極的に発言を続けています。長年にわたり沖縄の放送文化に貢献をされ続けた川平朝清さんは、日本復帰 50 年目にあたる 2022 年の志賀信夫賞に相応しい方であり、これまでのご活動をここに顕彰します。

### <プロフィール>

川平朝清（かびら・ちょうせい） 1927 年に家族の移住先であった台湾台中市で生まれ、敗戦後、家族で沖縄に引き上げる。川平家は琉球王朝の流れを継ぐ家系。1950 年「琉球の声」琉球放送局（AKAR、琉球放送の前身）がスタート、同局の初代アナウンサーを務めた。1953 年に米・ミシガン州立大学へ留学、テレビ放送の開始を見据えて放送局経営を学ぶ。帰国後、琉球放送で放送部長や常務取締役などを歴任し、1967 年沖縄放送協会（OHK）の初代会長に就任。NHK による OHK 吸収合併後は、東京の NHK 経営企画室で国際協力を担当。退職後は放送文化基金の事務局長や昭和女子大学教授などを務めた。ラジオパーソナリティのジョン・カピラ、俳優の川平慈英は、ご子息。

### ■志賀信夫賞過去の受賞者／敬称略、肩書は当時

第 1 回 澤田隆治（日本映像事業協会会長）、第 2 回 後藤亘（エフエム東京取締役相談役、東京メトロポリタンテレビジョン代表取締役会長）、第 3 回 植村伴次郎（東北新社最高顧問）、第 4 回 藤田潔（ビデオプロモーション名誉会長）／TBS『調査情報』、第 5 回 石井ふく子（テレビプロデューサー）、第 6 回 松尾羊一（放送評論家）、第 7 回 山本雅弘（毎日放送最高顧問）、第 8 回 西村泰重（J:COM 初代社長）、第 9 回 川端和治（弁護士、BPO 放送倫理検証委員会前委員長）、第 10 回 今野勉（テレビマンユニオン最高顧問）、第 11 回 樋泉実（北海道大学客員教授・電通総研フェロー・北海道テレビ相談役）、第 12 回 和崎信哉（WOWOW 相談役）



## 第 59 回ギャラクシー賞 テレビ部門

委員長 古川柳子

副委員長 桧山珠美

委員 石田研一 梅田恵子 永 麻理 太田省一 岡室美奈子 桶田 敦 加藤久仁 兼高聖雄 戸田桂太  
戸部田誠 藤田真文 細井尚子

### テレビ部門フロンティア賞

CBCドキュメンタリー

定期配信型ドキュメンタリー

「ピエロと呼ばれた息子」

CBCテレビ

30万人に1人といわれる皮膚の難病「道化師様魚鱗癬」と闘う4歳の濱口賀久くと両親の日常を追ったドキュメンタリー「ピエロと呼ばれた息子」を動画配信。1年間の総再生回数は7800万回超と広く視聴され、難病への理解を深める一助となりました。週1回の定期型配信は現在進行形で取材対象者の“今”を発信。新たな視聴方法を提供して、ドキュメンタリー番組の可能性を拓けました。



## 視聴者参加型のギャラクシー賞

# テレビ マイベストTV賞グランプリ

### マイベストTV賞 第16回グランプリ

## ドラマ特区「美しい彼」

### 毎日放送

視聴者の評価、満足や感動の気持ちを、投票によって形にしたマイベストTV賞。第16回のグランプリに輝いたのは、毎日放送のドラマ特区「美しい彼」。美しい風貌の高校生とその彼に片思いをする同級生の男子が主人公の作品で、性を越えたふたりの恋が美しい映像で切なく描かれたみずみずしい青春ドラマです。物語だけでなく、役者の細かい演技や余韻のある演出も素晴らしく、多くの視聴者の心を捉えました。投票では「BLドラマを越えて、普遍的な青春恋愛ドラマとして完成している」「こだわりのある映像美、脚本のクオリティの高さにひたすら脱帽」「主演のふたりが、人を強く好きになることの愚かさや尊さを体当たりで見せた」という視聴者の賞賛の声が数多く寄せられました。

### 解説

マイベストTV賞に参加した「オンライン会員Gメンバー」は、2022年4月26日現在で5332名。これに放送批評懇談会の正会員197名が加わり投票にあたったが**スタートした。(5/16修正)**

年間のグランプリは、2021年4月度から2022年3月度まで投票によって毎月決められたノミネート作36本の中から、最大5本までを投票するという方法で決められた。

グランプリに選ばれたのは、毎日放送のドラマ特区「美しい彼」。“不器用なふたりが惹かれ合っているのに噛み合わない空回り加減がいじらしい”“小説を読み終わったような余韻が残る作品”といったコメントが寄せられ、投票者の幅広い支持を集めた。

第2位はテレビ朝日のオシドラサタデー「消えた初恋」。“人を好きになることに性別は関係なく尊いものだとわからせてもらえた作品”“道枝くんと目黒くんが、若者の純粋な気持ちを自然に演じたところがとても素敵”など、テーマや演技に対する支持を多く集めた。

第3位は関西テレビの「大豆田とわ子と三人の元夫」。“大人の会話とお洒落な雰囲気を出し上手い俳優で楽しませてくれた作品”“「雑談ドラマ」という新しいジャンルを開拓した”など、脚本や演技に対する評価が高かった。

今期はベスト10のすべてをドラマが占めた。中でも、コロナ禍でも優しい気持ちになれるBLドラマが上位に入り、時代を反映する結果になった。

なお、次年度も同様の方式によって年間のグランプリを決定する。



### 最終投票結果

- 第 1 位 ドラマ特区「美しい彼」(毎日放送)
- 第 2 位 オシドラサタデー「消えた初恋」(テレビ朝日)
- 第 3 位 大豆田とわ子と三人の元夫(関西テレビ)
- 第 4 位 土曜ドラマ「今ここにある危機とぼくの好感度について」(NHK)
- 第 5 位 連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」(NHK)
- 第 6 位 水ドラ 25「ダメな男じゃダメですか?」(テレビ東京)
- 第 7 位 大河ドラマ「青天を衝け」(NHK)
- 第 8 位 よるドラ「恋せぬふたり」(NHK)
- 第 9 位 土曜ドラマ「コントが始まる」(日本テレビ)
- 第 10 位 ヒル(WOWOW)

### 参考

#### ★どんな賞?

「ギャラクシー賞マイベスト TV 賞」は、放送批評懇談会が NPO(特定非営利活動法人)になったことを節目として創設されました。

視聴者はどんな番組を評価し、どんな番組を愛好しているのでしょうか。放送局や放送の作り手には、視聴者の声は届きにくいのが現実です。とくに、「よかった」「素晴らしかった」といった推奨の声はなかなか形になって表れません。視聴者の評価の声を形にしたい、視聴者の気持ちを放送局や制作者に届けたい——そんな思いから生まれたのが、「ギャラクシー賞マイベスト TV 賞」です。

#### ★賞の本数、対象年度、賞の仕組み

ギャラクシー賞マイベスト TV 賞グランプリ 1 本

年度(4 月～翌年 3 月) ごとの日本国内で放送されたテレビ番組が対象

審査員は放送批評懇談会正会員とオンライン会員 G メンバー。選出は放送批評懇談会の会員サイトの投票で行う。毎月の候補番組は放送批評懇談会で制定。会員は毎月 1 回、候補番組の中から 5 本まで選んで投票。得票の多かった 3 本が月間ノミネート番組に選出される(投票の経過・結果は Web で発表)。1 年間に選出された月間ノミネート番組から、年間のベスト番組 5 本を選んで投票。もっとも多くの支持を獲得した番組 1 本が、<ギャラクシー賞マイベスト TV 賞グランプリ>に選出される。

#### ★オンライン会員 G メンバーとは?

「放送批評懇談会 オンライン会員 G メンバー」は、放送批評懇談会の活動に参加する「準会員制度」として、2016 年 5 月にスタートした。会費は年額 1,000 円。

G メンバーは「ギャラクシー賞マイベスト TV 賞」選出に参加し、番組への意見や感想を、テレビ・ラジオの制作者に発信する。月刊誌「GALAC」の簡易電子版を購読できるほか、放送批評懇談会が主催するセミナーなどに特別料金で参加できる特典なども用意されている。



## ギャラクシー賞の概要

### ◆歴史および概要◆

1963 年、放送草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は年度単位。

「ギャラクシー」とは、天の川、銀河という訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持つ。放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そして初代のトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって賞の名に選ばれた。ギャラクシー賞は第 50 回（2013 年）を記念してトロフィーを一新。松永真デザインの「バードマン」が新しい賞のシンボルとなった。

### ◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会（毎月）が開催され、月間賞が選出されている。他部門も定例会を持ち番組・作品を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎゃらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

### ◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。

放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。審査は、年 2 回（上期・下期）、エントリー作品を受け付けて行う。上期・下期で選出された作品を対象に年間の最終選考がおこなわれ、各賞を決定する。

表彰式は、毎年 5 月下旬～6 月初旬に行われる。受賞者には、トロフィーと表彰状が授与される。



◆賞の内容◆

【テレビ部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 10、特別賞 1、個人賞 1、フロンティア賞 1

【ラジオ部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 4、個人賞またはDJパーソナリティ賞 1

【CM部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 9

【報道活動部門】大賞 1、優秀賞 2、選奨 3

【その他】志賀信夫賞 1、マイベストTV賞グランプリ 1

(上記のほか、周年には記念賞を設ける場合がある。)

<志賀信夫賞>

放送批評懇談会の発展に寄与した放送評論家・志賀信夫の功績をたたえるために、2009 年度（第 47 回）創設。広く放送界の発展、放送文化の向上に貢献した人物等を表彰する。放送批評懇談会正会員の推薦を元に選出する。

<マイベストTV賞>

視聴者の参加により選ばれるテレビ番組賞で、2007 年（第 44 回）創設。放送批評懇談会選奨事業委員会が候補番組を選定し、これを毎月、放送批評懇談会正会員と「Gメンバー」（視聴者によって構成される放送批評懇談会のオンライン会員）が投票して選出される。年間で最も得票を得たものが「マイベストTV賞グランプリ」として表彰される。

◆沿革◆

1963 年度（表彰は 1964 年）ギャラクシー賞誕生、第 1 回。

1989 年度 第 27 回、ラジオ部門独立。

1993 年度 第 31 回、ラジオ部門にDJパーソナリティ賞新設。

1995 年度 第 33 回、CM部門設立。

2002 年度 第 40 回、報道活動部門設立。

2006 年度 第 44 回、視聴者が選考に参加する「マイベストTV賞」を新設。

2009 年度 第 47 回、「志賀信夫賞」を新設。

2015 年度 第 53 回、テレビ部門にテレビの新しいチャレンジを応援する「フロンティア賞」を新設。

●放送批評懇談会について：1963 年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行っています。

●過去の実賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://www.houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

以上